F.F.FIGHT

神羅の情報を聞き出すために
コルネオの屋敷に潜入したティファ。
ティファはチャンスをうかがうため
しばらくおとなしくコルネオの
部下たちの指示にしたがっていた。
しかし連れてこられたのは
いかにも怪しげな部屋。
拷問用具や卑猥な玩具、
拘束具などが並んでいる地下室だった。
そして出口のドアが閉められ
カギをかけられた。
「えっ…こ…これは…？」
「コルネオさまは別の女性と遊ぶらしい。
お前はオレたちが
好きにしていいってよ。へへへ…」
「くっ……冗談じゃないわ…」
密室で大勢の男に
取り囲まれたティファ。

はじめは抵抗し
男達の手を退けていた
ティファだったが
やはり多勢に無勢。
両腕が抵抗をかいくぐって
伸びてくる手に
胸やアソコを嬲られていくうちに
疲労し、ついには
ベッドに押し倒されてしまう。
『くっ…ひ…ひきょうもの！
あぁうっ！』
まずは　と言わんばかりに
皆の目を引いてしまうほどの
大きな胸から
もてあそび始める。

（こんなはずじゃなかったのに…
助けて…クラウド！）
体を押さえつけ
逃れられないようにして
割れ目に指を抽挿させてくる。
「ひイッ！あああああッ！」
ティファの体を
アクメのがかけ抜けた。
全身が痙攣し
今までと比べて
ひときわ高く大きな
あえぎ声をあげた。

「ほら
一気に入れちまえ！」
男に押さえつけられ
ペニスの先端が
ティファの入り口を
押し入ってくる。
「い…いやあっ！」
（いやっ…体中が…支配されていく…）
上から押さえつけてくる男と
下から突き上げてくる男の力で
リズムよく上下に揺らされ
結合部が激しく
快楽の摩擦を起こしていた。
逃げることもできず
大量の射精液を
子宮に浴びせられた。
（そ…そんなっ…こんな…男の…！）

しかしこれで終わりではない。
グッタリとするティファなどお構いなしの
元気な男たちがまだ何人もいる。

手を縛りつけられ　何もできないティファの体に
男たちの手がいっせいに伸びてきた。

（こんなに反応しちゃったら…
　こいつらを喜ばせるだけなのに……）

ビクンビクンと反応し、悶えまくるティファ。

男たちは挿入しようとせず
ただ嬲り続けるのみだった。

（ダメだ…頭がおかしくなりそう……）

「ひうっ…ダメ…胸は……
ダメッ…あッ…ゆび…くぅッ
…ぬい…て…あぁあっ！」
ただ触るだけ…。
イキそうになると寸止めしてくる。
それを何時間も続けられた。
一度　激しいオルガスムスを
味わってしまったティファの体は
寸止めされるたびに
カラダの中を空っぽにされるような
喪失感に襲われ
次第に羞恥心さえも
絶頂を渇望する心によって
侵食されていった。
（ああ…もう頭の中が…真っ白に…！）

「もう…ガマンできない…！もう…どうなってもいい！」
ついにティファは完全に堕ちてしまった。
「もう…ガマンできないの！　はやくぅ！」
「はやくどうして欲しいんだ？ククク」
「あっ…くっ…お…おねがい…い…いれ…て…！
な…何でも言うこと聞くから！
これ以上じらさないでぇ！」

「な…何でも言うこと聞くから！
これ以上じらさないでぇ!!」
「そんなにイカせて欲しいのなら
まずパイズリでもしてもらおうか」
早くイキたい…その欲望の
奴隷と化してしまったティファは
言われるがままだった。
「もう…ガマンできないの！
はやくぅ…はやく入れてぇ！」

「もう…ガマンできないの…
はやくぅ…はやく入れてぇ！」
焦らしに焦らされた末に打ち込まれた肉棒はティファの体に強烈な快感を走らせた。
「ひいいッ…！す…すごい…！気持ちいい！」
あまりの気持ちよさに悶絶するティファ。グラマラスボディをのけぞらせ、ベッドをゆらすほどの痙攣を起こす。
「あああっ！あああああッ！」

「もっと…もっと奥まで突いてぇ…！」
あまりの気持ちよさに
シーツをかきむしるように乱れるティファ。
体の奥底に眠っていたマゾの性質を完全に
呼び起こされてしまった。
「あああああああああアッ…！」

ゲリカの方針に造反した
セリスは投獄されてしまった。
兵士「常勝将軍セリスも
落ちたもんだな」
セリス「弱者を力で踏み潰す
お前達ほどとは堕ちてないが」
兵士「なにっ!?」
セリス「ゲリカは東方の国ドマを
毒を用いて皆殺しにする
計画をしているそうじゃないか」
兵士「うるさい！チッ。
明日はどうせ処刑されるんだ。
今のうちにへらず口を
叩いてるんだな」
兵士「明日には処刑されるから
今日お前に何をしても
許されるってワケだ」
セリス「!?」
兵士「今から何をされるか
分かるかな?ククク…」

「私を誰だと思ってるんだ！
このままですむと思うなよ！」
口では強がってみるものの
すでに拷問のためにクスリを
飲まされていたセリスの体に
力は無く、
簡単に鎖につながれてしまう。
さらにセリスの「女」である
部分を触られると
屈辱的な声までもらしてしまう。
「う……う……うっ……んん……」
「やっぱり魔導将軍様も女だなぁ」
「くっ……私は…
こんな卑猥な攻めなどには…
屈したりしない！」

二人の男に左右から挟み撃ちにされ
戦うために鍛えられたボディが
淫猥な悲鳴をあげかかっていた。
「だ…ダメだっ…そ…そこまでだ！
あうあぁッ……」
白い体が何度も波打ち
背を牢屋の壁から
離したり打ちつけたりを
繰り返す。
〈くそっ……
女の体であるということを
思い知らされる……〉

男は脚を掴ぎ拡げて
セリスに体を重ねてきた。
「ひ…卑怯もの…！こんなことで…
私が…おちるとでも…ッ…あぁっ！」
そう抵抗すると同時に
固い亀頭がクレバスを押し割った。
「あぁあぁあぁあっ！」
挿入された瞬間
すべてが終わったかのように愕然とする
セリス。
〈ウソだっ…私が…こんなっ…！！〉
しかしそこで終わるはずも無く
セリスにとっては永遠ともとれるほど
長い時間・・・・
紳士の女を犯せる興奮で
恐ろしいほどに勃起した男性器に
下半身の中をくまなくつき続けられ、
生まれて初めての
女としての屈辱を味わい続けた…。

ユウナはシンを倒したあと、国に帰するわけでもなく
スフィアハンター カモメ団として気ままな旅を続けていた。
しかしシン討伐に成功した大召喚士のユウナの名声、人気を利用しようと
するものは後をたたなかった。
あるときユウナは新エボン党の寺院のパーティに呼ばれる。
ユウナはあまりそういう行事に顔を出すのは好きではなかったが
昔の仲間なども来るということもあり渋々承諾した。
パーティが終わったあと ユウナは深い眠りについた。
食事の中に睡眠薬が盛り込まれていた。
「ククク…ユウナ様には これから我々に協力していただきたい」
「聞けばユウナ様は先の戦いで恋人を失い、精神不安定気味だと聞く」
「我々の傀儡の手でユウナさまを性の虜にしてしまおうではないか」
「さすれば ユウナ様は我々の思いのまま…ククク」
目を覚ましたユウナは老人たちに囲まれていた…。

力なく逃げ惑うユウナに
意思をもった触手が
襲い掛かる。
「や…やめて！」
ヌメヌメしたモノが
全身を這いずり廻り、
媚薬を飲まされ
敏感になっている
ユウナの体は
狂わされていく。

「もっともっと抵抗しないと…！
このままじゃ絶対ダメ…！」

長時間の触手での性拷問の後は
老人たちの直接愛撫が待っていた。

ベッドに仰向けで横たわらせたユウナの体を
触手でヌルヌルにされた肌を撫で回し、
ビンビンに勃起した乳首を舌で転がされる。

「おねがい…もう…許して…！」

ホットパンツごしにクリトリスを
優しいタッチでそっと撫でられると
下半身で疼いていた性衝動が一気に
開花してしまった。

「はあああッ！」

「ユウナさまはお尻も
敏感なようですなあ」
指が触れるか触れないか
くらいのタッチで
お尻を撫られると
ゾクゾクとした感覚が
下半身全体を駆けめぐり
指を入れられて
責められている膣肉の
快感を増幅させる。
（悔しい…！こんなことで…
感じてしまうなんて……はぁあっ！）
性体験は少ないが
淫乱女のように快感を甘受してしまう
アンバランスなユウナのボディは
複数の老人達の同時攻撃に
完全に翻弄されていた。
「いやぁあっ！おねがいッ！
それ以上は…もうっ…！くふうっ…！」

老人たちが挿入の姿勢に入ると
さすがにそれだけは絶対許すまじと
最後の力を振り絞って抵抗をこころみたが
手錠をかけられ　わずかな望みさえも
絶たれてしまった。
そして無情にもユウナの最後の砦が
破られた。
『あはあぁぁアアウッ！』
抵抗するためではなく
快感を耐えるために
右に左に体を伸ばすユウナ。
（これだけは…
絶対にさせないつもりだったのに…！）

一人目のセックスが終わると
すかさず二人目が
ユウナの中に入ってくる。
（こんな…
いつまで続くの…！？
もう…やめて…！）
バックから激しく
突きまくられる。
ぷるんぷるんと揺れていた
胸を両手でつかまれ
揉みしだかれる。
「もう手錠はいらないかな？」
男は手錠を外してみた。
しかしユウナは
もう抵抗できなかった。
懸命にもまだ抵抗しようと
している精神とは裏腹に
ユウナの肉体はもう
敗北を認めてしまっていた。

パンッ　パンッ！
大きな音を鳴らしながら
腰を打ち付けていくうちに
誰の目にも明らかなほど
ユウナはイキ狂っていた。
「ああっ！　あっ！
あああああアアッ！」

「私のいやらしい体
もっといじめてください…!」

「もっと気持ちよくなりたいのならこれからは我々の言うことを聞いてくれるな?」
「は…はいッ! ですから…! はやく… おち○ちんをくださいッ…!」
「ククク… はしたないなぁ大召喚士さまは…」

「うあああウッ！
あああああああっ！」
みずから腰を動し
快感をむさぼるユウナ。
（犯されるのが…
こんなに気持ち
よかったなんて……
くぅうッ…はあっ！」

故郷ウータイで運悪く
女好きの雑党コルネオに
捕まってしまったユフィ。
ユフィ「離せよ！ 離せってば！
ちょっとイタ、イタタタ！
コラ、アタシを誰だと…！」
コルネオ「ほひひ～！
やっと新しいおなごが
手に入ったぞ～！
今夜の相手は
この元気そうなおなごだ！」
ユフィ「ざけんな！ジジイ！」
コルネオ「ほひ～！
その拒むしぐさが
ういの～、うといの～！」

柱に拘束され
身動きができなくなった
ユフィ。
「あッ！　くうッ！」
醜い男の舌が
ユフィの全身を舐めつくす。
「ダメッ！　何もできない…
このままじゃ　私…！」

拘束されて身動きができない
ユフィの頭をおさえつけ
フェラチオを強要してきた。
「んんっ！」
予想もしてなかった行動に
戸惑い、
いとも簡単に口内にペニスを
挿入されるユフィ。
そのままユフィの頭を前後に
無理矢理揺かし
ユフィに嫌悪感を、そして自分に
快感を与える行為をし続けた。

フェラだけで終わることはなかった。
数百人の女を弄り続けてきた
コルネオの愛撫は巧みでねちっこく、
若く未熟なユフィの体は
無防備にひとしかった。
4時間ももてあそばれているうちに
もはや無条件ですべてをさらけ出すしか
ない状態にされ、
最後は人形のように犯された。

いつも身軽でオシャレな
服装が好きなリュックは
その日も薄着で夜の街を
歩いていた。
人通りが少なくなったところで
男達に尾行されていることに
気づくリュック。
「…！」
暗い路地で6人ほどの男に
とりかこまれてしまう。
「へへっ…ここなら助けは
誰もこないぜ」
「そんな格好してたら
犯されても文句は
いえねぇよなぁ」
「な…何よ！アンタたち！」

くっ…はなせっ…！　はなせぇ！

あ…アタシにこんなことして…後でどうなるか分かってんの!?

足が閉じたいのに…閉じれない…このままじゃ恥ずかしいところが…!

くやしい…男に好き勝手もてあそばれるのが…こんなに悔しいなんて!

手も縛られて抵抗できない…

目隠しされて何も見えない…

も…もうダメ…アタシ…犯されちゃう…！

いやっ…見られてる…!みんなに見られてる…!

こんなに一度に触られたら　どうやってガマンしたらいいのか分からない!

せめて…イクところだけは見られたくない…!

あっ…ダメッ…やっ…ああっ!
ヤダッ…おっきい…!大きすぎる…!
ああああああぁあッ!

あああああアアッ！

イヤッ！　そこはダメッ…！
そこはぁ……あぁあッ！

拘束されて…身動きがとれない…!

壁に押し付けられ
お尻を撫でまわれたり
舐められたりするユウナ。

やぁん！　もうガマンできないッ！
イカせてよお！　おねがいイカせてよお！

同人誌版F.F.FIGHT

初刷　2005年　10月20日

発行 / クリムゾン
印刷 / 大陽出版

快感限界突破！
抵抗をかいくぐり
戦う女たちに
屈辱と快感を…！
拷問部屋で襲われ犯しつくされるティファ
新エボン党の老人達の策略にはまり肉奴隷にされるユウナ
夜道で見ず知らずの男に取り囲まれるリュック
ウータイでコルネオに捕まってしまい弄ばれるユフィ
牢屋で下級兵士に女としての屈辱を味あわされるセリス
クリムゾンフルカラー同人誌第二弾
18歳未満の方は購入できません